

田吾作どん 酩酊山人と語る

田吾作どん：どうも初めまして。

坂根先生のクラスの田吾作どんです。

酩酊山人：おお、最近話題になっとるクラスぢやな。

田吾作どん：うっ！言われてしまった！

酩酊山人：まあ、それはよいとして、話は何ぢやな？

田吾作どん：最近畑の被害が.....

じゃなくて、最近の人への接し方について、クラスでの授業態度のこともです。

酩酊山人：さて、どんなところが問題になっとるのぢやな？

田吾作どん：まあ、あまり大げさではないのですが、【バキューン】(放送禁止用語)君なんか、平気で人に「身障」なんて言ってみたり、あまり関係ないが【ドキューン】(放送禁止用語)君なんて、テストの日やりに、先生がいらないのをいいことに、こっそりパンを「パクッ」なんてこともあったんですよ。

酩酊山人：うむ。後者の場合はまわりの人にいやな思いをさせるのう。

田吾作どん：しかも、生徒だけではなく、先生への授業態度なんかも最悪。先生がいないからって、立ち歩いてみたり、後ろ向きに座ってみたり、授業中寝てみたりなんてのはしょっちゅう。

こわい先生が来たらやめるのはまだいい方で、どんな先生が来ようとも平気。少々オーバーだが、こんなものです。

酩酊山人：ほう、なかなか度胸があるのう。

さすがは、我が弟子のクラスじゃわい。

うわあっはっはっ。

田吾作どん：笑っている場合ではありませんよ。

結局困るのは周りの人たちなのですから。

さらにこのままだと、その少人数のせいで、学年一やばいクラスの烙印を押されてしまいますよ。

酩酊山人：まあ、よいではないか。

田吾作どん：よいって、そんな.....

酩酊山人：まあ、聞くのぢや。

今言ったように、クラスとしてはダメダメと言ってもよいぢやろう。しかし、悪いのはその中の数人ぢやて。まあ、結局あとで困ったことになるのはその人だけ。つまり自業自得。だから、言ってもきかんやつに言うよりも、自分がマシであろうと考えて、行動すればよい。

田吾作どん：そんな消極的なのが解決法？

酩酊山人：バカタレ！

今までののはすべてアドバイスぢや。これから先は自分で考えい。

田吾作どん：.....はい.....。

ではこれからちょっと考えてみます。では遅くなりましたのでこれで.....

酩酊山人：うむ。また問題があったら来るがよいぢやろう。もう暗いので、気をつけてな。

田吾作どん：そんな小学生みたいな.....

(このあと、帰られるのかはあなたの想像にまかせます。)

(後日談)

酩酊山人：なかなか生徒の作品にもおもしろいのがあるのう。

坂根：そうでしょ。

さすがは1年6組ですね。

酩酊山人：自分でほめてどうする！

だいたい、クラスの問題はそう解決しとらんではないか。

坂根：いや、しかし、掃除はかなりまともになりましたよ。

でもさぼる者、いい加減な者、ただいるだけの者なんてのはまだまだいますけどね。

酩酊山人：すなわち餓鬼ぢゃな。

坂根：そうなんですよ。

叱らなくてはわからない、餓鬼なんです。

これでは本当にわかったことにはなりませんね。

女子の中にはもっと叱れ！という声もありますが、自分でできなければ、結局一緒です。

田吾作どんの話にもありましたが、どんな先生がきても同じというのは、うそをついていないという面ではまだましかもしれません。こわい先生の前だけ、いいかっこする方がろくでもない餓鬼かもしれません。

酩酊山人：その通りぢゃのう。

本当にわかったものは、誰が見ていても、見ていなくてもできるものぢゃ。

そうならなければ、本当の成長とは言えない。

しかし、そもそも何をしたらいいのか、何をしたらいけないのかがわかっていないのぢゃから、まだまだ6組には餓鬼も畜生も多いと見たがのう。

坂根：いつ人間になるのでしょうかねえ。

酩酊山人：お主も悩みは尽きぬのう。

(といつつつ、2人は酒を酌み交わし、夜は更けていくのであった。)